

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473300612	事業の開始年月日	平成16年2月1日
		指定年月日	平成16年2月1日
法人名	特定非営利活動法人 友宝		
事業所名	グループホーム 友宝		
所在地	(〒226 -0023 ) 神奈川県横浜市緑区小山町292-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日本の在来工法で建てられた2階建ての建物には、神奈川県産の檜や杉の木が使われ、利用者様が、ほっとできる空間になっています。</p> <p>また事業所は、雑木林や竹林に囲まれた緑豊かな環境にあり、遠くに、富士山や眼下には、蛇行する恩田川の田園風景が眺められます。</p> <p>ホームでの生活は、個人の思いや今までの暮らしが、なるべく継続できるように努め、地域の中では、住民との交流のある暮らしも大切にしています。</p> <p>また、庭の畑でとれたお野菜を食卓に供するなど、食事は、とても大切にしており、利用者様から美味しいと言われてます。</p> <p>地域の同業者や地域住民とも連携して、お祭りを開催したり認知症の啓発活動も行っています。</p>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和2年10月22日	評価機関 評価決定日	令和2年11月11日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b></p> <p>◇理念に基づく利用者本位の支援</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「職員は高齢者の人権を守ります、普通の生活を保障します」の理念のもと、利用者信頼関係を築き、利用者が自分の家として“良い感情も不快な感情も”自由に出せるように支援している。</li></ul> <p>◇利用者の好みを取り入れた食事の提供</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・調理専門の担当者職員は、長年実績があるメニューから利用者の好みに合わせた、手作りの食事を提供している。</li></ul> <p>◇地域住民との交流の緊密化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域のボランティアが「庭の畑で野菜作り」をしており、採りたての野菜を食卓に提供している。</li><li>・天気の良い日は近隣を散歩し、地域の方と声を掛け合い交流している。</li></ul> <p><b>【事業所が工夫している点】</b></p> <p>◇避難訓練への地域住民の参加協力</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「避難訓練は、地域との協働で」を実現している。地域の参加者からの提案で、利用者の写真を入れた「緊急時利用者確認表」を作成して、緊急避難時に地域の方が、利用者の一人一人を確認できるようにしている。</li></ul> <p>◇居心地の、良い住環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・居室やリビングの窓から、富士山や竹林が眺められ、食卓に供される庭の畑で採れた作物から四季を感じ、また室内は、専門のスタッフによる清掃が行き届き整理整頓されて、居心地良く過ごせる環境になっている。</li></ul>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム友宝
ユニット名	そよかぜ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	◎ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	◎ 1, 毎日ある
	◎ 2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	◎ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	◎ 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	◎ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	◎ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	◎ 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	◎ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	◎ 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	◎ 1, ほぼ全ての職員が
	◎ 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	◎ 1, ほぼ全ての利用者が
	◎ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	◎ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも再確認できるように相談室に掲示されており、合同会議やミーティングで理念に基づき話し合いをし、介護実践につなげているが全員に周知できていない。	・理念を職員間で話し合い、分かりやすい6項目のキャッチフレーズとして相談室に掲示して、利用者本位の介護につなげている。 ・職員は、利用者が我が家として自分の気持ちを出せるよう、支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、協力関係が出来ており、自治会の納涼祭や消防訓練に参加、また、運営推進会議には、複数参加いただいているが現在はコロナの影響で自粛中。保育園や団地の方との交流があり、散歩中声を掛け合う関係になっている。	・自治会に加入し、地域との協力関係ができています。コロナ禍前は利用者は職員と一緒に自治会の納涼祭や消防訓練、隣接する保育園の運動会に参加している。 ・地域のボランティアによる庭での野菜作りで、旬の採りたて野菜を食事で味わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が買い物、散歩の様子等、日常生活をしている中で、認知症の人の姿を自然に理解していただけるように実践している。また、山下譲歩交換会で、認知症啓発活動を行っているが、現在はコロナの影響で自粛中。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。避難訓練、山下ふれあい祭り等、自治会関係者の方々にご協力をいただいているが、現在はコロナの影響で自粛中。	・自治会長、民生委員、家族会、地域包括支援センターの職員や、区職員の参加を得て、2か月ごとに開催している。 ・今年度は、報告書と返信用葉書を送り意見を聞いており、励ましのメッセージを貰っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や月1回の山下情報交換会に出席があり、認知症講座への協力や、区の情報提供を受けている。緑区認知症初期手中支援チーム検討委員会の及び高齢者虐待に関する連絡会に参加している。コロナ禍で自粛中。	・区職員、地域包括支援センター職員に近隣5か所のグループホームからなる「山下情報交換会」を、2か月ごとに開催している。 ・今年度は、コロナ禍の影響で、メールでやり取りし、情報を共有して協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修をし、スタッフに周知をさせている。日々、気を付けあっている。認識の浅い職員もいる。玄関は、日中は施錠はしていない。ユニットに入るためのドアは安全のため鍵が取り付けられているが、簡単なもので自由に入出りできる。	・年1回は、身体拘束と虐待をテーマに、ホーム内で研修を行い、職員に周知している。 ・玄関は、日中開錠している。 ・施設長は、職員の不適切な言動には、その都度注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修をし、スタッフに周知させている。日常の中で、自身の言葉遣いの振り返りをしたり、スタッフ間で気を付けあっている。認識の浅い職員もいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者の方が複数おり、実務の中で学ぶことが出来ている。全スタッフに周知できていないので今後周知する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や見学時に、または制度改正時に説明をするなど機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が言える信頼関係を作り、来訪時や電話等で意見を聞かせていただいている。声の箱を設置し直接意見が言えない方にも対応している。	・施設長は、家族に“小さなことでも気になることは、早めに言ってほしい”と伝え、言いやすい雰囲気を作っている。 ・家族からの要望で、振込口座を増やした事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はミーティングや合同会議に参加し、話せる機会がある。個別に対応する等柔軟に対応をしている。理事長は、合同会議に、適時ユニットミーティングに出席している。個人面談をするなど意見や提案を聞く機会がある。	・法人理事長が、職員と年1回面談し、施設長は、合同会議やユニットミーティング、休憩時間に職員の意見を聞いている。 ・職員の意見から、遅番職員の休憩時間の変更を運営に反映した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年度末にスタッフと面談を行っている。職員の生活環境や特性に合わせて向上心ややりがいが持てる様に環境整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で、外部研修に出向くことは厳しい。ホーム内でのトレーニングや研修を中心している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や、山下情報交換会に参加。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、見学、面接を行う。また、入居初期には本人、家族、関係者に協力いただき情報収集し、対応をしている。生活に慣れるまでは、特にコミュニケーションを多くとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や家族等にこまめに連絡を取り、入居直後から1か月は特に状況を報告するなど、安心頂けるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療連携等の状況、ボランティア状況、適切な福祉用具が必要かどうか、また、地域との関係など説明し対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を把握して任せられる役割を作ったり一緒に行うことで共に生活をしている関係を築いている。人生の大先輩であるというを忘れずに接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や毎月の通信、電話で状況を伝え、相談したりしながら共にささえていく関係を大切にしている。電話での対応は、顔が見えない分、丁寧な説明に心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の日頃の表情、言動に注意し、家族や後見人への訪問の依頼や自宅訪問等行い、家族がいらっしゃる方には一緒に過ごす時間を大切にしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時のアセスメントや利用者との日頃の会話から職員は、利用者の生活歴を把握して、支援に努めている。</li> <li>・職員は、利用者の電話や手紙を取り次ぎ、また、一緒に服を自宅に取りに行く他、正月の家族の集まりへの参加を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格などを把握し、気の合う者同士が交流を楽しめるように、トラブルが起きないように、リビングの席、ソファの配置等入居者同士関わりあえるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後の様子を聞いたり、相談に応じたりしている。数年前に退去された親戚の方から手紙が届いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意識して日頃の会話の中から移行などを引き出せる言葉かけに努めている。困難な場合は、言動から読み取り、スタッフ間で検討をして入居者本位のケアが、出来る様に勤めている。	. 利用者の思いや意向は、日頃の会話から把握し、個別の記録用紙に記載し、職員間で共有している。 ・把握が困難な場合は、しぐさや表情から把握し、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集や、ご本人や家族との会話の中で情報収集するように努力しており、アセスメント表に活かしている。スタッフがいつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りの内容や定期的に行うミーティングで現状を把握している。昼夜の状況、心身状態の把握をしながら個別に合わせた生活が出来る様に、工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い課題を明確にしている。ミーティングでは意見やアイデアを出し合えるように努め介護計画に反映している。状況により、緊急カンファレンスを行い、家族医療機関と介護計画を作成している。	・入居者担当職員が、本人と家族にアセスメントして、ミーティングで話し合い、計画作成担当者が、利用者、家族の要望、医師、看護師の意見を取り入れて、介護計画を作成している。 ・介護計画は、6か月で見直し、1年ごとに更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で申し送りを必ず行い、個人記録やごゆむにつきより情報共有をしている。スタッフからの意見などを取り入れケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や変化に応じて医療との連携等、本人のニーズに合わせて支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、団地、大家さん、理事さんから支援を受けている。又、畑、植栽の管理。音楽関係、詩吟、フラダンス、車いすダンス、移送等、地域のボランティアさんにご協力いただいているが、コロナ禍の現在は、自粛中である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の話し合いで、主治医の相談をしている。現在は、全員往診医で対応している。専門医は、家族が基本対応しているが、できない場合は、主任、施設長が対応し、家族や後見人に報告をしている。	・現在入居者全員が、協力医を主治医とし月2回の往診、週1回の訪問看護を受けており、24時間オンコール体制がある。 ・専門医は、家族対応であるが家族の都合によっては職員が、付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ている。基本的な健康チェックから皮膚の状態、心身の健康状態の変化等気づいた事を随時相談し適切な処理、治療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と連絡を取りながら、対応している。又。ご家族と連携を密にし、面会や、退所向けの説明会に参加し、早期の退院にむけ対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にまず説明を行い、その後は必要時に都度、家族、医療機関、後見人、スタッフ間等と話し合いを積み重ね、終末期に向けた取り組みを行っている。	・看取り経験のある職員は、10名で、2年前には2名の方を見送った。携わった職員は、終了後レポートを提出して対応を振り返り、職員間で検討している。 ・看護師が、自作の絵本を使用し職員に看取りの研修をし、具体的な支援方法を実施指導している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアル、急変や事故対応のポスターを相談室に掲示。緊急時連絡先は、デスクの上に置いてある。実践力は、今後さらに訓練などを行って身につける必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域住民の参加も得られて避難訓練を行い、近隣との連絡を図っている。スタッフ間の緊急連絡を使用。まだ、身につけていないスタッフもいる。昨年度は、コロナ化で急遽中止となった。	・総合避難訓練（夜間想定、水害、土砂災害）には、地域住民の参加協力を得て実施している。 ・地域の協力者とは「緊急時利用者確認表」を共有し、民生委員とも連携している。 ・備蓄品には、3日分の食料、飲料水その他、ポータブルトイレや、ランタンなどを用意している。	・備蓄品のリスト化による管理は、現在中断していますが、管理の再開が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の状況状態, 性格を把握しながら、目線を合わせる、言葉遣い等に気を付け、居室に入る際にも気を付けている。後になって、プライバシーを損ねたのでは？と、気づくこともある。	・管理者は、職員が忙しいときやひとりで対応する時は、利用者への言葉かけに特に注意するよう指導している。 ・個人情報に関する書類は、鍵のかかる書庫で保管している。職員は「プライバシー、個人情報保護の外部研修」にも参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、散歩、食事、席等傾聴し希望を聞き、自己決定できるように支援をしている。内容によっては、ミーティング等で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や、室内で自分のペースで過ごしたい等、希望に沿って可能な限り支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選ぶ、体形に合った服の用意、ほつれを治す、髪の毛の乱れを治す等、身だしなみの支援に努めている。定期的な訪問美容を利用をする。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で好きな食べ物を聞き、可能な限り献立に取り入れている。配膳下膳食器洗い、お盆拭き等手伝っていただいている。自覚をもって行っている方もいます。	・調理職員とユニット職員が、利用者の好みに合わせた手作りの食事を提供している。 ・ひな祭り・花見・敬老の日やクリスマスの行事食のほか、出前や弁当も提供している。 ・コロナ禍前、家族と外食する方もいたが現在は、自粛している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べやすい食事形態、量で食事の提供をしている。水分摂取においても、食事、おやつやバイタルチェック・入浴・散歩後等麦茶、本人希望のドリンク等提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診で見いただき、口腔内の状況を確認している。本人の拒否がある場合もあるが、本人の状態に合わせて、義歯洗浄剤、口腔洗浄液等視聴し、衛生保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートで排泄パターンを把握し、本人が面倒がる場面や、困難なときもあるが、職員は、排せつの失敗を減らす努力をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレへのチャンスを見逃さないよう、職員は、利用者の日常行動を観察し排泄パターンを把握して、声をかけ誘導している</li> <li>・寝たきりの利用者も車椅子でトイレに行き、座位で自力排便が出来る様に支援をしている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操、足を動かすなど本人に合わせた運動をしてもらっている。水分量が不足しないよう、また、下個人に合わせた下剤用等をし、便秘防止に努めている。おむつの方も、トイレに座る等自立排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望の時間や入浴スタイル等、スタッフ同士相談をしながら支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回、午後の入浴を基本に、利用者は、菖蒲湯などで季節感味わい気分転換をしている。</li> <li>・職員は、朝夕2回暖かいタオルで全利用者に陰部清拭し、清潔保持に努めている。なお、風呂場と脱衣場は、ヒートショック対策をし、安心安全な支援に心掛けている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握し、体調や状況に合わせて入床、休息の時間を調整し、安眠出来る様に支援している。日中ベッドで休息する方もいる。衛生面にも考慮し寝具の入れ替え清潔保持をしている。室温や照明にも気を使い安眠出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のためダブルチェック体制をしている。異変があった場合はすぐに主治医、薬剤師と連絡できる体制になっている。全スタッフが、薬の作用、副作用など把握できているとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たたみ、洗濯物たたみ、カーテン開閉、食器洗い、配膳下膳、散歩、花壇の水あげ、掃除等役割を持っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で、今は、天候に応じて、散歩に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以前は、作成した外出計画で年4回ほど地域のお祭り、花見や初詣などを実施していた。</li> <li>・現在は天候が良い日、車いす利用者も15分ほど散歩をしている。</li> <li>・コロナ禍以前は個別支援でボランティアと散歩をする利用者もいたが、現在は休止している。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方が所持しているが今のところ使っていない。外出支援が出来るようになったときに使えるよう支援したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や後見人が施設に電話をして頂き、本人と話ができる様にしている。年賀状は毎年出している。かけない方はスタッフが対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう花などを飾っている。温度調節や空調には十分気を配り居心地の良い環境づくりをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用部分の温湿度は、職員が管理し、清掃作業は、専任職員が担当している。家具類は、利用者の動線に配慮し安全な配置がなされている。</li> <li>・廊下には、季節の生花を飾り、ベンチを設置し利用者が居心地よく過ごすスペースとなっている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、リビングでは、話の合う入居者同士でソファに座っていただき安心感があるようにしている。西側の窓からの夜景、保育園が見えて、楽しみの1つにもなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や使い慣れた家具を置き、個性を重視した居心地よく過ごせる環境にしている。転倒しないように、また車いすでも、安全に過ごせる様に、居室の中の配置を工夫したり、危険なものを置かないようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者は、使い慣れたテレビ、椅子、写真や仏壇などを持ち込み、職員が、快適さや安全面を考慮して配置している。</li> <li>・事業所の設置物には、ベット、エアコン、可動式クローゼット、防災カーテンや照明器具がある。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険が生じた時は本人の不安材料を取り除ける様、施設長・スタッフ・本人と話し合っている。		

事業所名	グループホーム友宝
ユニット名	のどか

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	◎ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある ◎ 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ◎ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過させている。 (参考項目：30, 31)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	◎ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	◎ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ◎ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ◎ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	◎ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	◎ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	◎ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも再確認できるように相談室に掲示されており、合同会議やミーティングで理念に基づき話し合いをし、介護実践につなげている。しかし、新人スタッフまでには、共有できているまでは行っていない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、協力関係が出来ており、自治会の消防訓練に参加、また、運営推進会議には、複数参加いただいている。また、隣の保育園や団地の方と交流があり散歩中等声を掛け合う関係になっている。今年度は、コロナの関係で出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が散歩等で、認知症の人の姿を自然に理解をしていただけるように実践をしている。また、地域の他事業所と毎月1回情報共有して認知症啓発活動を学校や商店、自治会などで行っているが、今年はコロナで出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、感染症の影響で、書面会議を2か月に1回開催している。返信用はがきを同封して、意見感想を反映する等、ご協力をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や月1回の山下情報交換会に出席があり、その中で交流をしていたが、今年度は、メールなどでの交流となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に、スタッフに周知をさせている。外部からの侵入を防ぐ為と入居者が使用できる玄関の鍵は、施錠している。スタッフが出勤してきたら入居者が、鍵を開け出迎えてくれている。。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に言葉遣いや態度、接し方等、ミーティングで話し合い、防止に努め、虐待について学びあっている。入浴時にあざ等の確認をしたり、利用者が介護者に言いやすい雰囲気や努めるなど、良い関係づくりを意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者の方が複数おり、実務の中で学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や見学時に、または制度改正時に説明をするなど機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見が言える信頼関係を作り、来訪時や電話等で意見を聞かせていただいている。声の箱を設置し直接意見が言えない方にも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長はミーティングや合同会議に参加し、話せる機会がある。理事長は、合同会議に、適時ユニットミーティングに出席している。年度末に個人面談をするなど意見や提案を聞く機会が、ある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にスタッフと面談を行っている。処遇が整備されてきている。スタッフのやる気度の食い違いが見える事もあるので、面談を増やすなどしていても良い。慢性的な人手不足でもあり、有給休暇が取りづらくなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中で、外部研修がほぼ、できない状態。内部研修や現場でのトレーニングを、行っている。グループホームケアについての研修に浸透が求められる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修を行っている。また、地域の情報交換会に毎月出席し、交流を深め助け合い向上しあっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、見学、面接を行う。また、入居初期には本人、家族、関係者に協力いただき情報収集し、対応をしている。生活に慣れるまでは、特にコミュニケーションを多くとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や家族等こまめに連絡を取り、入居直後から1か月は特に、状況を報告するなど、安心頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療連携等の状況、ボランティア状況、適切な福祉用具が必要かどうか、また、地域との関係など説明し対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあう関係づくりをしているが、グループホームのケアの認識が薄いスタッフは、入居者を置いてきぼりにする場合が見受けられる。また、「なんで私だけ」と思わせたりする場合がある		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話で、ホームの生活の過ごし方を伝えている。入居者の状況に応じて、通院の協力いただく等、家族の絆を大切にしていける努力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は、ご近所だった方、学生時代同級生の方、教会の方、親戚の方やお孫さん曾孫さんなど訪ねてきておられました。今は、電話やお手紙で関係が途切れない様になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やその日の体調を把握し状況に応じた対応が出来ている。立ち上がり時不安定な方を見つけると、他の入居者が教えて下さったり、洗濯物の取り込み時、率先して手伝って下さる方もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所直後の様子を聞いたり、相談に応じたりしている。数年前に退所された方のご家族より、お手紙や、電話を頂いたり、新米が届いたり、法人会員になってくださる方もおられます。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位で公園に行ったり、散歩に出ておられる。自身で表現できない方は、行動や表情、体調をみて、介護者同士が話し合いを持ち、本人本位の立場で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集やご本人や、家族の会話の中で情報収集するように努力しており、アセスメント表に活かしている。スタッフがいつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りの内容や定期的に行うミーティングで現状を把握している。昼夜の状況と心身状態の把握をしながら、昼間からベッド上の生活にならない様に、本人の生活歴も考えながらメリハリのある生活が出来る様工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い課題を明確にし、家族や後見人に意向を聞いている。ミーティングでは意見やアイデアを出し合えるように努め介護計画に反映している。が、全スタッフに周知できていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化や言動も記入している。ミーティング等で、実践や再度検討する機会を設けている。その内容を、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の信仰の継続するため、教会の方々と交流し、都度都度の行事に参加している方もいたが、コロナの影響で現在は、出来ていない。「子供100当番」の札を掲示し、地域の子供支援に協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、団地、大家さん、理事さんから支援を受けている。又、畑、植栽の管理。音楽関係、詩吟、フラダンス、車いすダンス、移送等、地域のボランティアさんにご協力いただく環境ではあるが、コロナの影響で、出来てない部分もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の話し合いで、主治医の相談をしている。入居前の主治医の継続については、ご家族の協力をいただき、受診をしてもらっている。医療連携している医療機関を主治医する場合は、ホーム対応となり、月2回往診いただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来ている。体調の変化などを相談し必要に応じ、24時間対応していただけるようになってきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族より状況のお話を伺ったり、面会や、看護師さんから様子を聞いたりしている。退院時カンファレンスに参加し、退院指導を直接受けたり、退院にむけ、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にまず説明を行い、その後は必要時に都度都度、医療機関と家族と話し合いを積み上げている。また、内容によっては、区の担当者に助言を求めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルが電話の前においてある。急変や事故対応のポスターを相談室に掲示。毎年、心肺蘇生訓練など食対応の訓練は行っているが、全職員に実践力は行き届いていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度はコロナの影響で出来なかったが、定期的に地域住民の参加も得られて避難訓練を行い、近隣との連絡を図っている。地域とホーム内のそれぞれの、緊急連絡があり、整備はされているが、全スタッフに実践力が身につけているとは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビング内での声かけは、難聴の人には傍に行く配慮する等気をつけている。男性入居者の性的な発言等の対応には、特に配慮している。が、聞く耳を持たない入居者や、あまりに酷いことがあれば言葉を荒げてしまう事がある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活になかで、入浴や散歩等希望を伺い、支援をしている。また、ミーティングや、引継ぎで送る。自己決定できるような場面をつくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿い一人で散歩や家事手伝い等それぞれに合わせた支援を行っている。また、何もしないとほとんど眠っている方やテレビを見ている方には、声掛けなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回訪問髪カットの利用や、季節に合わせ衣服、その人らしい清潔感のある身だしなみ、下着が出ていないか等の支援、外出時の帽子や上着の調整、靴のかかとを踏んでいないかの支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好を取り入れ、季節を感じる行事食や畑で収穫された旬の野菜が使われている。スタッフの手作りで温かい食事を作っている。配膳下膳、食器洗い、お茶入れ、台拭き等、スタッフと一緒に取り組まれている。食事形態も気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医のアドバイスを参考に食事量、水分量等、ゼリーやトロミ、麦茶、ジュース等個別に対応している。食事量が少ない方にも栄養面のバランスも考えた献立の心配りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診で見いただき、口腔内の状況を確認している。食後みがき残しがないか個々にチェックし清潔保持している。自分で出来る方は後に確認、拒否の方は、時間をずらす等、介助が必要な方は介助でと個別対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシート使用で、定時誘導や個人の排泄パターンの対応をしている。徘徊して落ち着かない場合は、誘導する、拒否があれば、時間を置き再度誘導する等行っている。本人にあったパット等の検討もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつ時に牛乳バナナプルーン、汁ものにオリーブオイルを入れ、召し上がっていただいている。水分量やゴミ集めをして体を動かす、便座に座る姿勢、腹圧を掛ける等個々に合わせ便秘防止に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に合わせて週2回以上入浴できるようにしている。季節により、菖蒲湯やゆず湯等で楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握し、体調や状況に合わせて入床、休息の時間を調整し、安眠出来る様に支援している。また、ベッドの高さや掛物、マットレス等個別に対応している。夜間入居者がトイレに安全に行ける対応をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋説明書があり、いつでも確認できるようになっている。誤薬防止のためダブルチェック体制をしている。薬が変わったり増えた場合は、体調の確認をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し能力にあわせ、台所関係や、洗濯物関連のお手伝いをしていただいている。歌やレクリエーションを楽しみ穏やかに過ごしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気に触れ、季節感を肌で感じてもらえるように、天気の良い日は散歩に行っている。個々の体調に合わせて散歩の回数やコースを調整している。一人で散歩や公園に行っている方もあり。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができない方が多い為、小遣いは預かっているが、外で行事に参加の場合は、スタッフの支援を受けながら購入をしている。日用品は、家族やスタッフが購入の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ支援できるようになっている。友人や元同級生等からお手紙が届いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう花などを飾っている。温度調節や空調には十分気を配り居心地の良い環境づくりをしている。リビングや廊下は木造づくりで落ち着く空間になっており、戸外からの音もなく、静かに過ごせる様になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、話の合う入居者同士でソファや、テーブルに座って話したりテレビを見るようになっており、ゆったりと過ごせようとしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や使い慣れた家具を置き、個性を重視した居心地よく過ごせる環境にしている。転倒しないように居室の中の配置を工夫したり、危険なものを置かないようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札やトイレ、洗面所の案内を付け、わかりやすくしている。廊下に物を置かない、手すりにつかまり歩く等、最後まで自立のための安全を考えている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム友宝

作成日

令和2年11月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時用備蓄品のリストアップの不整備	災害時備蓄品をストアップする	年内にまず、リストアップし、内容の精査を年度内にする	年度内
2	13	災害時用備蓄品の点検が不十分である	災害時備蓄品の点検をすぐできるものを年内にする	照明用、ラジオ等、乾電池使用の備蓄品の点検をスタッフ全員で行う	12月のユニット会議後の時間
3	13	災害時備蓄品の点検計画がされていない	災害時備蓄品の点検計画の立案	リストアップと点検が終わった時点で、計画の立案をする	今年度3月まで
4	13	コロナ禍で、災害防災訓練が日充分である	コロナ禍で災害防災訓練を工夫して開催する	コロナ禍での訓練方法を消防署、区役所、同業者と相談し、年2回開催する	今年度と次年度に向けて
13		コロナ禍で、スタッフが安心して働ける環境づくりを今以上に行う	感染症対策の徹底とストレスの軽減を図る	感染症対策の個別指導と、余裕のある勤務体制づくり	1年間

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。